

国連IGF会議の変遷と今後 ～初期の会合を中心に

デジタル政策フォーラム
カンファレンス

2023年10月18日

IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム
チェア 加藤幹之

インターネットガバナンス (IG) 議論の経緯

- ITUや国際社会で、ICANNやインターネットの米国支配への批判が始まる
- 2001年12月：国連が世界情報通信サミット (WSIS) 開催を提唱
- 2002年2月：ICANN内部でも制度改革を承認
- 2003年12月：第1回WSISをジュネーブで開催
- 2004年11月：国連事務総長がWGIG設立
- 2005年7月：WGIG報告書公表

IG議論の経緯（2）

- 2005年11月：第2回WSISをジュネースで開催、ジュネース行動アジェンダ（P.5）採択し、Internet Governance Forum（IGF）設立決定
- 2006年5月：IGFのAdvisory Group（AG）選定
- 2006年10月30日-11月2日：第1回IGF総会、アテネで開催（5月と9月にAG会合で内容を議論）
- 2007年2月11-12日：AG会合/公聴会を開催
- 2007年5月23-25日：AG会合/公聴会を開催
- 2007年11月12-15日：第2回IGF総会

WGIG 報告書 (2005年 7月)

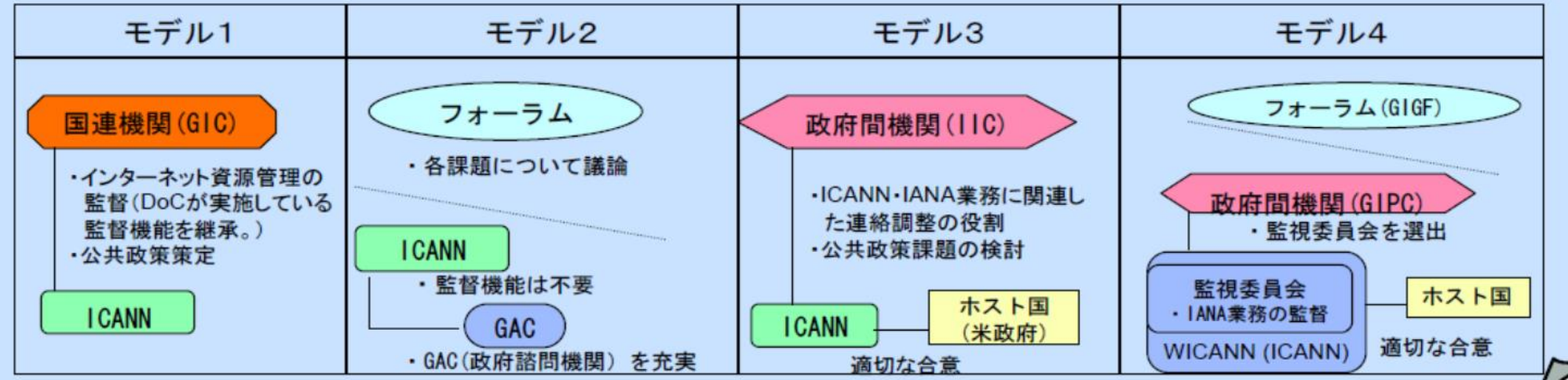
インターネット・ガバナンスの作業上の定義

インターネットガバナンスとは、「インターネットの展開と利用を形作る、共有化された原則、標準、規則、意思決定手続き、プログラムを、政府、民間部門、市民社会がそれぞれの役割において、開発し適用すること」であるとされた。

インターネットガバナンスメカニズムに関する提言

- 「フォーラム機能」
インターネット・ガバナンスに関するあらゆる課題について、全てのステークホルダーの間で対話ができるような新たなスペースを設けるべき。望ましくは国連とリンクさせるべき。
- 「グローバルな公共政策と監督」
 - ・一国の政府が、国際的なインターネットガバナンスの中で突出した役割を持つべきではない。
 - ・ガバナンス機能のための組織形態は、政府、民間部門、市民社会及び国際機関の完全な参加によるもので、多国間、透明および民主的なものでなければならない。
 - ・インターネットの継続的な国際化と普遍性の原則に照らし、既存のガバナンスメカニズムについて見直しが必要。

【今後の検討のために以下の4つの組織モデルを提案】



WSISチュニス会合の合意内容（2005年11月）

1. インターネットの管理問題

- 現状のICANN体制は維持するが、継続検討とする
- ccTLDの管理は、各国の自治を認める
- 各国政府が平等に役割、責任を持つことを確認し、Enhanced Cooperationを求める

2. フォーラムの設立

- IGに関連した公共政策問題を議論する場
- 既存の機関等を置換するものではなく、監督権限なし
- 国連が事務局を設け、すべてのステークホルダーが参加する
- 当初5年間でスタート（後に延長して20年間継続を合意）

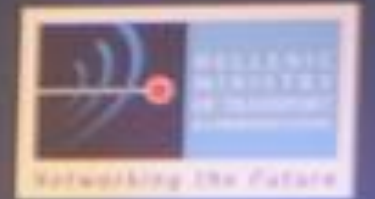
IGF アテネ総会 (2006年10月30日-11月2日)

- 参加者：1,350人 (政府、国際機関、企業、市民社会)
- 全体テーマ：経済発展の為のインターネットガバナンス
- 4つのサブテーマ

内容	
開放性	表現の自由、情報の自由流通、権限委譲と知識へのアクセス
セキュリティ	スパム、フィッシング、ウィルスとプライバシーの保護
多様性	IDNを含む多言語化、ローカルコンテンツ
アクセス	接続料、相互接続、オープンスターダート

横断的イシュー: キャパシティ・ビルディング

en s G R E E C E 2 0 0 6 interNET GOVERNANCE FORUM



第1回IGFアテネ会議
(2006年)

壮大な実験とも評された、
10人を超えるパネリストに
よるインタラクティブな
3時間に及ぶセッション



日本から今井義典氏（元NHK副会長、ヨーロッパ総局長）がモデレーターとして参加



Dynamic Coalition (具体的な活動連携グループ)
= 当初からアクション・グループが積極的に活動

- The StopSpamAlliance

- APEC, ITU, OECD他のプラクティスの集約

- Dynamic Coalition on Privacy

- デジタルID, デベロップメント/表現の自由とプライバシー, 匿名性

- IGF Dy.Coalition on Open Standards

- 技術標準, アプリの相互運用性, 電子政府の運用

- IGF Dy.Coalition on the Internet Bill of Rights

- 個人ユーザの権利と義務(イタリアで国際会議)

Dynamic Coalition (続き)

- A2K@IGF Dynamic Coalition [access to knowledge]
 - IPRの制限と例外, IPR侵害の第三者責任, WIPO
1996の反迂回措置, 公開情報を利用したビジネスモデル, 無償ソフト,
表現の自由と文化的多様性, 他
- Freedom of Expression and Freedom of the Media on the Internet
 - インターネット上の表現とメディアの自由
- IGF Dynamic Coalition on Access and Connectivity for Remote, Rural and Dispersed
 - 地方などの接続性, 官民連携の推進, ユニバーサルアクセス

第2回リオデジヤネイロ会議（2007年） 日本からも企業や総務省幹部が多数参加



第4回シャルム・エル・シェイク会議（2009年）～エジプトの観光地



会場周辺の様子

エジプト会議の主な登壇者 = 政府関係者は「アラブの春」でその後降板



エジプト カメル IT
大臣



エジプト ナジフ首相



EU委員会 レディング情報社会大臣



バナーズリー WWWの父



エジプト ムバラク大統領夫人



Yahoo! ヤン 創業者



ITU ツウーレ事務総局長



ICANN ベクストロム CEO



ISOC アモール CEO

トリビア

「アラブの春」 (外務省サイト)

[外務省: 「アラブの春」と中東・北アフリカ情勢 \(mofa.go.jp\)](http://mofa.go.jp)



「アラブの春」と中東・北アフリカ情勢

「アラブの春」とは、2011年初頭から中東・北アフリカ地域の各国で本格化した一連の民主化運動のことです。この大変動によって、チュニジアやエジプト、リビアでは政権が交代し、その他の国でも政府が民主化デモ側の要求を受け入れることになりました。今回は「アラブの春」による中東・北アフリカ情勢とその動きに呼応した国際社会と日本の支援について紹介します。

■ 2011年の「アラブの春」とは？

北アフリカのチュニジアで発生した反政府デモに端を発し、中東・北アフリカ諸国に拡大した「アラブの春」は、長期独裁政権が続いていたチュニジアやエジプトでは大統領が退陣、リビアでは反体制派との武力衝突を経た政権交代が行われるなど、かつてない大規模な政治変動となりました。それまで極めて限定的にしか政治参加できなかった一般の民衆が変革の原動力となった点がこの政治変動の大きな特色で、経済的格差や独裁政権による統制、政治参加の制限等に対する民衆の不満の高まりがその背景にあります。反政府運動に参加した民衆はツイッターやフェイスブックなどのソーシャルネットワーキングサービス（SNS）や衛星放送等のメディアによって連帯と情報共有を図っており、かつてないスピードで国境を越えて民主化運動が拡大していきました。



「アラブの春」と中東・北アフリカ地域 (2012年5月現在)



■ チュニジア～「アラブの春」の端緒となった民衆による政変

「アラブの春」の発端となったのは、2010年12月17日、チュニジアの一人の失業中の青年が、路上販売に対する当局の取り締まりに抗議して焼身自殺を図った事件でした。その後から各地で起きた大規模デモを衛星放



今後（2009年以降）のIGFについて（経団連の意見表明）

- IGFはこれまでもマルチステークホルダーの議論の場として、成果を出しており、来年以降も継続すべき
- 継続の追加的理由として、「IGFで議論すべき新しい問題がどんどん発生している」ことを指摘
- 具体的に、クラウドコンピューティングを例に取り、「プライバシーやセキュリティーや知的財産権の問題等があり」、また「クラウドへのアクセスの問題という形で、アクセスの議論はやはり重要である」ことを指摘
- 「インターネットのスピードで進化する技術に対応して、IGFで新しい問題を議論していくべきだ」と締めくくる



IGF会議は地域ごとの会議も バヌアツでのAPrIGF会議（2018年）の例

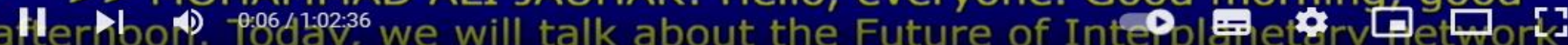


若者がリードするIGF—— 第17回アジスアベバ会議（2022年）の例

- ワークショップ#491
- 表題：The future of Interplanetary networks-A talk with Vint Cerf = 「惑星間のネットワークの未来—Vint Cerfと話す」
- 主催者：Internet Society Youth Standing Group、Queer in AI ([Queer in AI](#))、Youth Coalition on Internet Governance (YCIIG)
- [IGF2022 - Day 2 - CR3 - WS #491 The future of Interplanetary networks A talk with Vint Cerf – YouTube](#) 参照



the topic. Thank you.
 >> MOHAMMAD ALI JAUHAR: Hello, everyone. Good morning, good afternoon. Today, we will talk about the Future of Interplanetary Network



IGF2022 - Day 2 - CR3 - WS #491 The future of Interplanetary networks A talk with Vint Cerf



Internet Governance Forum (IGF)

チャンネル登録者数 4350人

🔔 登録済み

👍 1



🔗 共有

📄 オフライン



第18回京都会議（2023年10月）

- 京都会議の（ドラフト）サマリー参照：
[26575 \(intgovforum.org\)](https://www.intgovforum.org/26575)
- 9297人参加登録、178か国から6279人現地参加、3000人以上がオンライン参加
- 355のセッション開催
- メインテーマ：
The Internet We Want - Empowering All People

第18回京都会議（2023年10月）



IGFの現在状況

- 20回目以降も延期するか？その場合、どういう形となるか？についてWSIS+20の議論が開始。
- 京都会議ではIGFの継続を求める発言が多かった。
- 一方、国連ではGlobal Digital Compact(GDC)も並行して検討
- マルチステークホルダーの参加（政府関係者だけでなく、市民社会、技術者コミュニティ、企業等の民間セクター、アカデミックを広く含めた議論の形式）
- 中国やロシア、中東諸国、グローバルサウスの国々も含めた議論の場
- AIや新しい技術も検討、国連のSDGs 議論の重要な要素を提供

ありがとうございました